

KODAK
LICENSED PRODUCT

© The Tiffen Company, 2000

KODAK Color Control Patches

Blue 1 2 3 4 5 6 8 9 10 11 12 13 14 15 17 18 19
Cyan 2 3 4 5 6 8 9 10 11 12 13 14 15 17 18 19
Green 4 5 6 8 9 10 11 12 13 14 15 17 18 19
Yellow 8 9 10 11 12 13 14 15 17 18 19
Red 9 10 11 12 13 14 15 17 18 19
Magenta 11 12 13 14 15 17 18 19
White 13 14 15 17 18 19
3/Color 17 18 19
Black 18 19

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

144
344
2

流素紀坊
二

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23

ル呂4
344
備巻 2

高田

筑紫紀行卷二

四月三日辰刻頃空漸晴そらやうらふもる午刻な刻こと死し丸まる龜かめ

じちく船出ふねいす西にし風かぜなる小こ一いち里り許よはほど初はつき走まり

がてし帆かと下くだし漕こ志しなりありわは田たノ口くちまでいえゆるて

申まを刻こと終はつる下くだ津つ井い小こ壺つぼまで泊とどる丸亀より七里小こ船ふねは小こ四よ國くにの

七なな島しまの穴あなおわりの小こ舟ふねる其その中ちゆう小こ舟ふね島しま小こ船ふねとおほくありあり

近ちかし須す弥や島しまとのありわ小こ舟ふね是こゝ等と小こ舟ふね島しま志しゆる石いし塔たとと

と讚たぬ岐き小こ舟ふねなり立たてぬ諸もろ本もと島しまかき乃のは備び茶ちやをりそとく清きよれ

海中うみに浮うくいるは盆ぼん水みづと湛たへくは舟ふねあり石いしども入いり

とくわく何なに所ところあると生なま素すをぬらふ船ふねとて見みえたる其その

田口

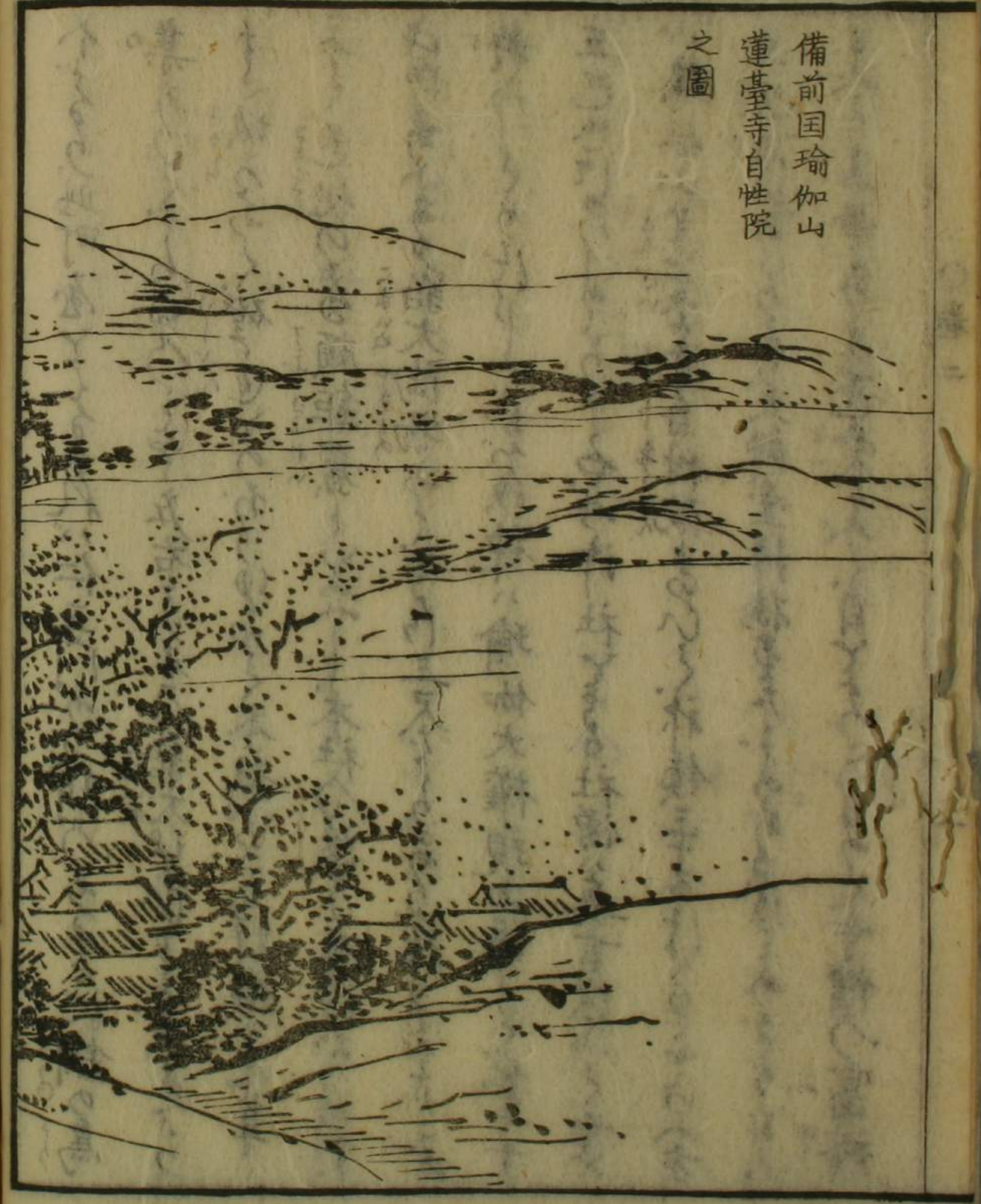
風負

○卷二

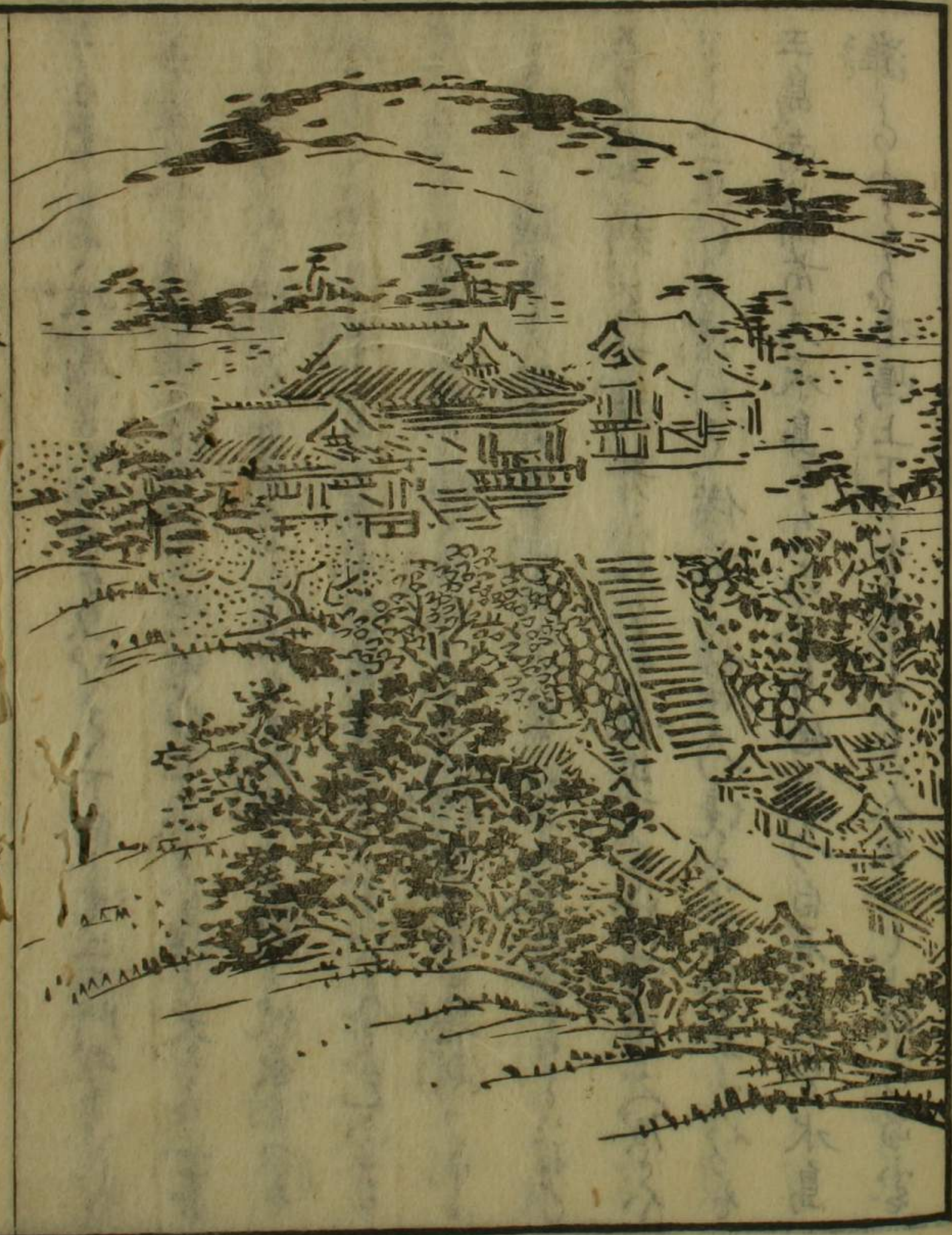
をる赤土山と廻ふ坂ハ少く平道多し^{（ハハ）}廿三四丁程あり本社
小らうぼく二丁をり^{（ハハ）}此小大なる石も集^{（ハハ）}たり。地もよりのハ
一丁ばかり平地あり。茶屋宿屋五六十軒あり。傍に^{（ハハ）}は^{（ハハ）}家
毎小婢二三人で門小ぢら出店もゆる人だんもよりに入る体
を^{（ハハ）}人^{（ハハ）}膳^{（ハハ）}ありてよりまうでより^{（ハハ）}記^{（ハハ）}け^{（ハハ）}も^{（ハハ）}や^{（ハハ）}煙^{（ハハ）}者^{（ハハ）}も^{（ハハ）}つ^{（ハハ）}ら^{（ハハ）}さ
ふ^{（ハハ）}ぬ^{（ハハ）}銀^{（ハハ）}鈍^{（ハハ）}蕎^{（ハハ）}麦^{（ハハ）}ふ^{（ハハ）}く^{（ハハ）}も^{（ハハ）}有^{（ハハ）}ま^{（ハハ）}じ^{（ハハ）}く^{（ハハ）}の^{（ハハ）}事^{（ハハ）}と^{（ハハ）}口^{（ハハ）}に^{（ハハ）}い^{（ハハ）}ひ^{（ハハ）}ま^{（ハハ）}は^{（ハハ）}る。
所^{（ハハ）}が^{（ハハ）}と^{（ハハ）}と^{（ハハ）}詞^{（ハハ）}も^{（ハハ）}異^{（ハハ）}様^{（ハハ）}小^{（ハハ）}ぢ^{（ハハ）}も^{（ハハ）}な^{（ハハ）}ま^{（ハハ）}り^{（ハハ）}あ^{（ハハ）}り^{（ハハ）}て^{（ハハ）}と^{（ハハ）}と^{（ハハ）}と^{（ハハ）}真^{（ハハ）}形^{（ハハ）}
ハ^{（ハハ）}と^{（ハハ）}り^{（ハハ）}と^{（ハハ）}か^{（ハハ）}へ^{（ハハ）}ま^{（ハハ）}ら^{（ハハ）}ふ^{（ハハ）}や^{（ハハ）}あ^{（ハハ）}ま^{（ハハ）}り^{（ハハ）}あ^{（ハハ）}り^{（ハハ）}稀^{（ハハ）}あり^{（ハハ）}と^{（ハハ）}髪^{（ハハ）}華^{（ハハ）}や^{（ハハ）}り^{（ハハ）}
と^{（ハハ）}と^{（ハハ）}の^{（ハハ）}ひ^{（ハハ）}あ^{（ハハ）}り^{（ハハ）}紅^{（ハハ）}粉^{（ハハ）}乃^{（ハハ）}粧^{（ハハ）}い^{（ハハ）}厚^{（ハハ）}き^{（ハハ）}ふ^{（ハハ）}を^{（ハハ）}ぎ^{（ハハ）}て^{（ハハ）}た^{（ハハ）}ぬ^{（ハハ）}め^{（ハハ）}さ^{（ハハ）}と^{（ハハ）}り^{（ハハ）}を^{（ハハ）}る
あり^{（ハハ）}り^{（ハハ）}山^{（ハハ）}中^{（ハハ）}僻^{（ハハ）}達^{（ハハ）}の^{（ハハ）}次^{（ハハ）}小^{（ハハ）}あり^{（ハハ）}せ^{（ハハ）}と^{（ハハ）}珠^{（ハハ）}小^{（ハハ）}目^{（ハハ）}少^{（ハハ）}ら^{（ハハ）}あ^{（ハハ）}り^{（ハハ）}わ^{（ハハ）}ら^{（ハハ）}る

か^{（ハハ）}と^{（ハハ）}り^{（ハハ）}此^{（ハハ）}町^{（ハハ）}を^{（ハハ）}と^{（ハハ）}り^{（ハハ）}ら^{（ハハ）}れ^{（ハハ）}バ^{（ハハ）}仁^{（ハハ）}王^{（ハハ）}門^{（ハハ）}あり^{（ハハ）}門^{（ハハ）}乃^{（ハハ）}あり^{（ハハ）}と^{（ハハ）}銅^{（ハハ）}の^{（ハハ）}鳥^{（ハハ）}
集^{（ハハ）}あり^{（ハハ）}と^{（ハハ）}り^{（ハハ）}ぬ^{（ハハ）}り^{（ハハ）}と^{（ハハ）}や^{（ハハ）}左^{（ハハ）}右^{（ハハ）}り^{（ハハ）}石^{（ハハ）}乃^{（ハハ）}貊^{（ハハ）}犬^{（ハハ）}び^{（ハハ）}い^{（ハハ）}き^{（ハハ）}と^{（ハハ）}り^{（ハハ）}是^{（ハハ）}と^{（ハハ）}り
ま^{（ハハ）}と^{（ハハ）}坂^{（ハハ）}乃^{（ハハ）}あ^{（ハハ）}く^{（ハハ）}磴^{（ハハ）}道^{（ハハ）}と^{（ハハ）}の^{（ハハ）}か^{（ハハ）}り^{（ハハ）}ゆ^{（ハハ）}あ^{（ハハ）}く^{（ハハ）}本^{（ハハ）}社^{（ハハ）}小^{（ハハ）}ぢ^{（ハハ）}り^{（ハハ）}拜^{（ハハ）}殿^{（ハハ）}ハ^{（ハハ）}瓦^{（ハハ）}葺^{（ハハ）}
あ^{（ハハ）}く^{（ハハ）}甚^{（ハハ）}化^{（ハハ）}の^{（ハハ）}由^{（ハハ）}頗^{（ハハ）}鉅^{（ハハ）}麗^{（ハハ）}と^{（ハハ）}い^{（ハハ）}へ^{（ハハ）}本^{（ハハ）}社^{（ハハ）}乃^{（ハハ）}後^{（ハハ）}了^{（ハハ）}奥^{（ハハ）}院^{（ハハ）}あり^{（ハハ）}す。
此^{（ハハ）}所^{（ハハ）}前^{（ハハ）}小^{（ハハ）}ある^{（ハハ）}貊^{（ハハ）}犬^{（ハハ）}陶^{（ハハ）}物^{（ハハ）}や^{（ハハ）}と^{（ハハ）}り^{（ハハ）}三^{（ハハ）}尺^{（ハハ）}を^{（ハハ）}り^{（ハハ）}あり^{（ハハ）}作^{（ハハ）}り^{（ハハ）}て^{（ハハ）}古^{（ハハ）}
種^{（ハハ）}あり^{（ハハ）}と^{（ハハ）}り^{（ハハ）}び^{（ハハ）}り^{（ハハ）}と^{（ハハ）}お^{（ハハ）}ゆ^{（ハハ）}神^{（ハハ）}ハ^{（ハハ）}瑜^{（ハハ）}伽^{（ハハ）}大^{（ハハ）}権^{（ハハ）}現^{（ハハ）}と^{（ハハ）}稱^{（ハハ）}と^{（ハハ）}り^{（ハハ）}狐^{（ハハ）}七^{（ハハ）}十^{（ハハ）}
五^{（ハハ）}匹^{（ハハ）}に^{（ハハ）}は^{（ハハ）}ら^{（ハハ）}り^{（ハハ）}め^{（ハハ）}り^{（ハハ）}と^{（ハハ）}り^{（ハハ）}や^{（ハハ）}此^{（ハハ）}津^{（ハハ）}社^{（ハハ）}と^{（ハハ）}り^{（ハハ）}社^{（ハハ）}僧^{（ハハ）}ハ^{（ハハ）}真^{（ハハ）}言^{（ハハ）}宗^{（ハハ）}小^{（ハハ）}ぢ^{（ハハ）}寺^{（ハハ）}と^{（ハハ）}
ハ^{（ハハ）}瑞^{（ハハ）}依^{（ハハ）}山^{（ハハ）}堂^{（ハハ）}臺^{（ハハ）}寺^{（ハハ）}自^{（ハハ）}性^{（ハハ）}院^{（ハハ）}と^{（ハハ）}り^{（ハハ）}神^{（ハハ）}領^{（ハハ）}三^{（ハハ）}十^{（ハハ）}石^{（ハハ）}に^{（ハハ）}り^{（ハハ）}あ^{（ハハ）}り^{（ハハ）}と^{（ハハ）}り^{（ハハ）}方^{（ハハ）}
丈^{（ハハ）}客^{（ハハ）}層^{（ハハ）}の^{（ハハ）}あ^{（ハハ）}り^{（ハハ）}と^{（ハハ）}り^{（ハハ）}大^{（ハハ）}師^{（ハハ）}堂^{（ハハ）}鐘^{（ハハ）}樓^{（ハハ）}堂^{（ハハ）}と^{（ハハ）}り^{（ハハ）}あ^{（ハハ）}り^{（ハハ）}と^{（ハハ）}り^{（ハハ）}あ^{（ハハ）}り^{（ハハ）}可^{（ハハ）}
と^{（ハハ）}り^{（ハハ）}と^{（ハハ）}り^{（ハハ）}其^{（ハハ）}愛^{（ハハ）}を^{（ハハ）}へ^{（ハハ）}く^{（ハハ）}目^{（ハハ）}と^{（ハハ）}り^{（ハハ）}と^{（ハハ）}り^{（ハハ）}と^{（ハハ）}り^{（ハハ）}寺^{（ハハ）}僧^{（ハハ）}乃^{（ハハ）}富^{（ハハ）}裕^{（ハハ）}

備前国瑜伽山
蓮臺寺自性院
之圖



○卷二



あつてつゝあつちの岩部人本一本少くも京大坂又赤名古屋の
うち小櫛ささつは産くんばつはつらつ法入るよらあひ貴一も其名
もさつらつきさつゆきやまてふの秋息はふふ山中なんどの佳本
佳石と見えふ堆少くも山もよく昔十のすやく昔め事さつさ
れも産いさつてもおれゆるふれどおれははるまじつおとさつあ
やさつこつ入るふはこれの産ふ人おの産るこつふあさつらつこつ
こつ新田と葉さつふれつとさつ人あつたつ百おふつああるさつ
草葺をわ使はつ國のさつ小をあつたつさつ備中倉敷のゆ代良
の支配するはなつらつらつ

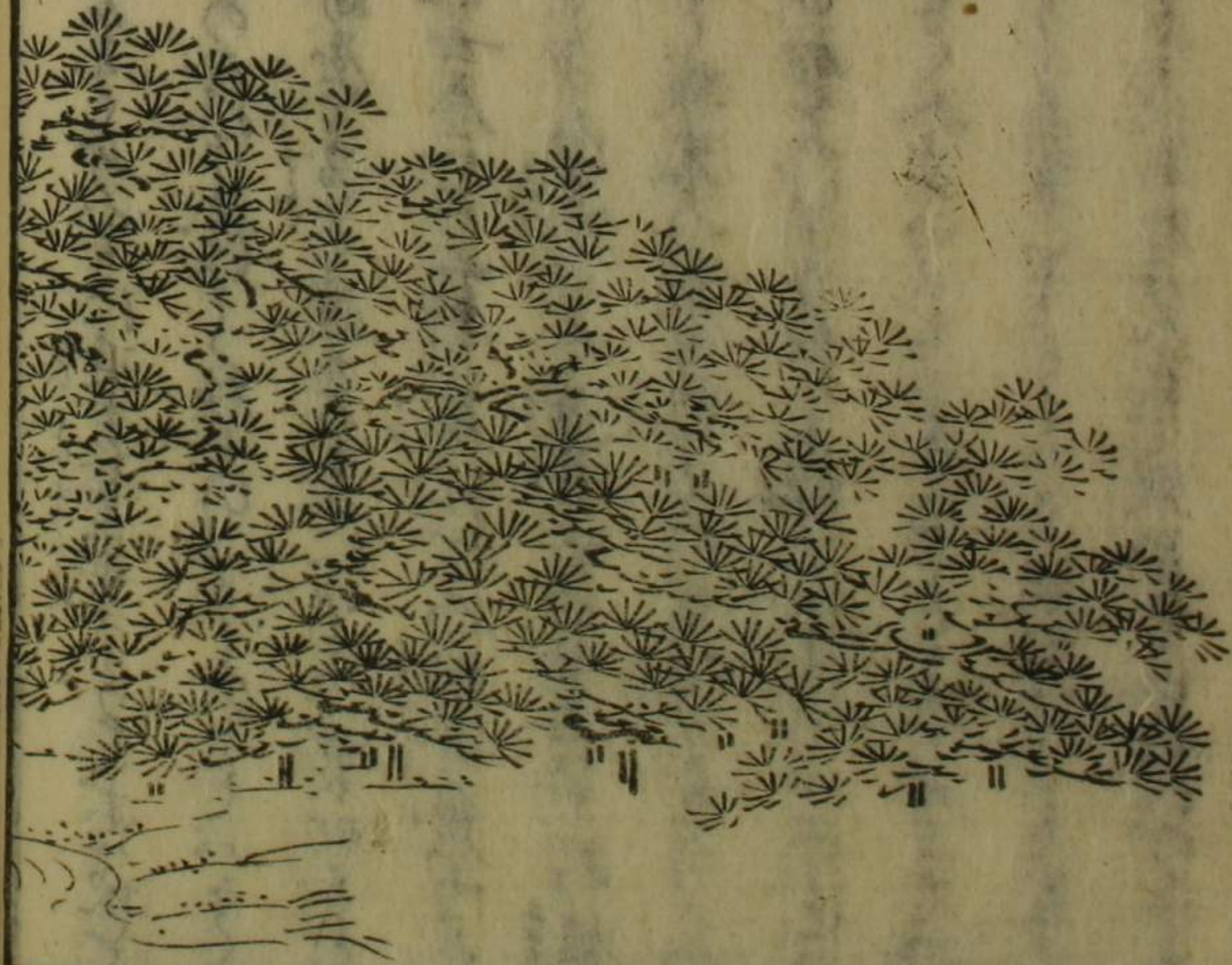
○五日卯刻あつる頃お風は南よ走つとつ水出とす。鞆乃浦より

あつこつ泉あつるさつとつ小あつあり。杉ども茂つあつこつさつらつなり。其
あつこつ女間四方はつよの小島ありあつこつ舟やてのさつ祠あり。枝
さつらつ紀松形さつあつさつおやつあり。嘆息とさつさつらつさつあつ
あつこつ列ごつあつらつ。傷はつ福山の殿の領地あつこつ入口おさつ
所あり。はつさつはつさつ大湊あつこつ人家無慮千軒ありあつ。本町
さつこつ商家ありつゝ賑つ。鍛冶屋町さつこつ二丁れつらつ鍛冶の
居まらつ。又魚の店さつあつ所もありさつこつはつ浦さつ鮮魚さつこつ多
しつ。西東の端さつあつ漁者のさつあつ。名物とさつこつハ世さつ傷あつ焼や
つ陶器さつこつ保命酒さつ表七島造綿さつこつさつ所さつ賣家多
さつゆ。はつこつはつ中さつさつさつ善録さつ構さつ屋敷のあつ所。何ぞ

少回バ朝鮮乃三使経過の時乃此地走の館舎なりといふ所てこ
 うこありく小女共二尺許乃平桶小魚物まき青物といきて呼ば
 ばいりありく小女系てり風ありといふてめぼしく又アチ期
 て山乃手小祇園乃寺社のあるに参詣つ前小石馬集あり礎と
 の行里くせうじん門よりすれハ御社ハ持皮葺やく南向りをもせ
 ず小石網のつひ猪突向い居まるとお舞臺うたいとうら石の手水鉢ハ自じ然
 又の長二間半むりむりせりしり門前小松寺より真言宗此
 寺あり寺内小内府重威公乃清石碑あり同公乃御位牌又
 記録の巻物ホあり百錢とて用帳一拜見と許す庭ふとま
 威公乃自じ植置まのりといふ雲ありきりめく女松ふく高はと僅

三間ぐりあり枝ぐも甚なぐりぐりに近表盡垂まがりて末ハ地と
 摩すれりかふゆりき松ハかのもれははく植まのりていふとていふ
 又とぐすべーやとまより所屋と過すきく涼むのこにゆまハ裏町とて
 青樓酒家の町あり遊女屋ハ二軒廊はきり粧青麗あり
 風作とていふありあまこり小美とて並居り茶屋ハ十軒餘
 ありあまの門口小婢出居る旅客乃袖と執とり留とりくせりわ
 遊ゆあせよせせらにといひ神をいりぬとも離とりくといふ
 せんくもく入るく小まうせく入るくいりうあめとこまんといふて
 とゆるめく登る乃るいせく用事とて志まひて曉のほくより来て
 宵乃月とも貴くゆるぬるにあむらんをとす賺ままてぬぬのあむ

備後國鞆
小松寺庭
松



饅頭屋喜助とらひく。カキもとれり。ふく。産愛乃。風景もす。
とて。も。う。て。ま。ら。う。づ。波の岸も。彼祇園の山旅所あり。其は。小
廻。り。南。よ。び。い。く。海上と眺。す。れ。ば。眼。前。小。泉。も。あ。り。折。り。く
浮。き。て。足。を。遥。く。伊。豫。の。こ。の。島。く。烟。霧。乃。中。小。菴。蒼。ら。り。此
づ。り。の。わ。れ。ど。絶。景。と。屢。く。入。る。を。れ。ば。い。い。あ。り。す。あ。り。く。わ。り
て。の。と。く。後。く。し。は。所。は。芭。蕉。翁。の。塚。あり。自然。乃。青。石。少。く。茂。り。く
并。小。銘。文。と。彫。り。

こゝふれ湖乃と那こころのま

銘曰

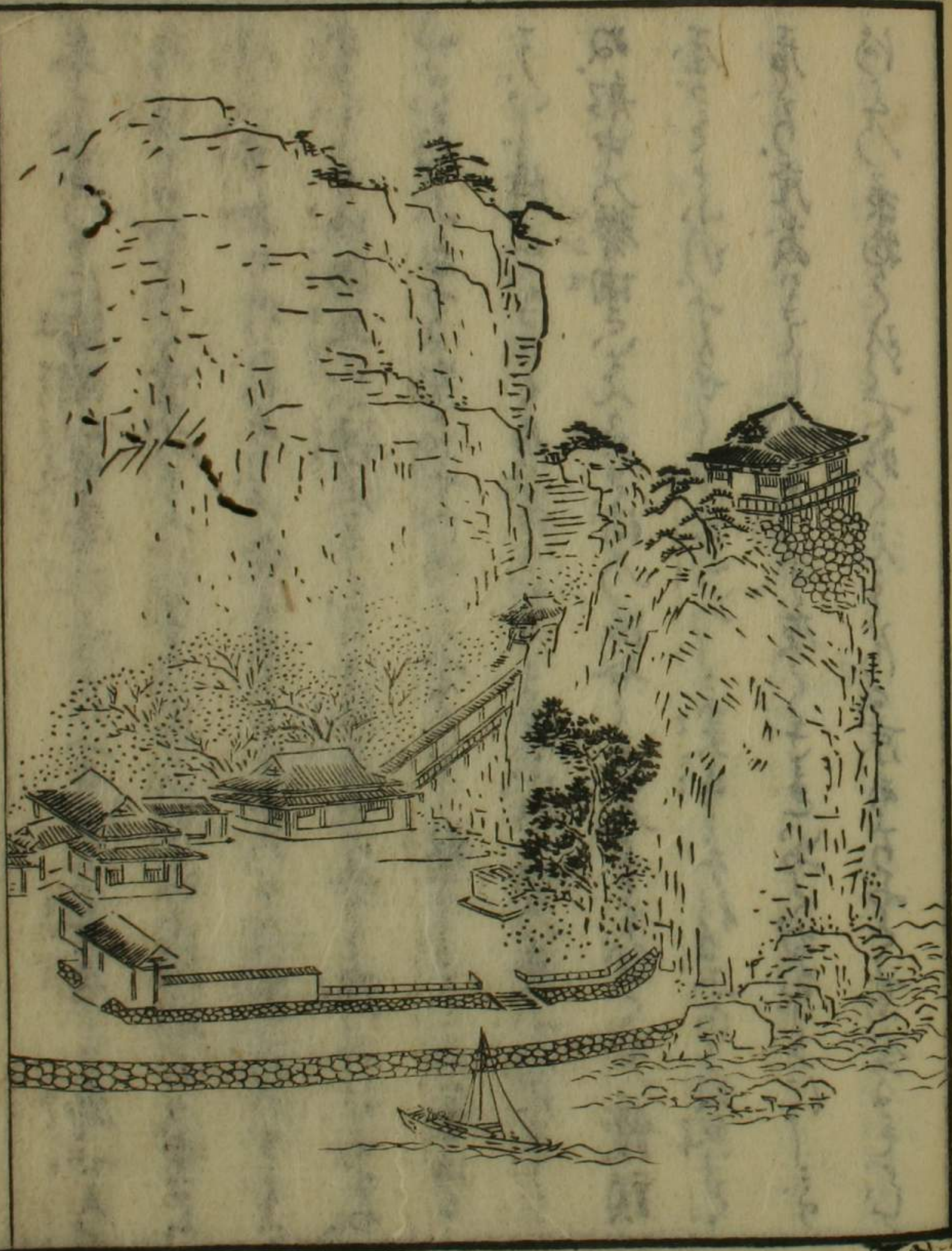
蕉翁為人 滑稽絶倫 卮言温故

鼓吹知新 千里負擔 諸州師賓

同志繼緒 花月此裡

安永六年酉春三月

とあり。とら。く。帰。眼。く。こ。刻。過。漕。出。海。面。廣。き。あり。南。ハ。伊。豫。園。
北。の。こ。ろ。平。山。波。濤。の。わ。く。浪。五。ふ。つ。り。たり。松。と。茂。り。あ。ひ。く。立
續。く。小。船。ち。あ。ぶ。と。い。ゆ。く。池。の。並。木。たり。は。景。を。玩。び。る。に。あ。り
いつ。う。景。中。乃。一。物。と。り。く。畫。中。れ。船。と。や。人。の。も。ら。い。街。道。の。松。の
中。小。前。親。者。と。い。ふ。あ。る。後。と。飛。鳥。と。い。ふ。小。島。と。い。ふ。見。え。り。こ。の
あ。ゆ。も。い。る。一。里。わ。く。お。も。て。觀。音。堂。は。清。つ。の。山。乃。屋。時
の。海。岸。の。ふ。ま。堂。建。て。南。方。海。上。よ。じ。ら。く。觀。音。の。像。と。安。置。し。



備後国
阿伏鬼
海潮山
磐岩寺

同去 巖跡
阿伏鬼 海潮山
磐岩寺
十里 買 歸
同卷 三 頁
阿伏鬼 海潮山
磐岩寺

奉ふ堂の下に海潮山磐臺禪寺とあり寺あり其庭より廊下乃
燈道とのわきと堂小まふげりあり廊の中程小待橋あり堂を
傍小帯板の燈花あり此鏡香をもち見おろせば数石の下り
ちりちり海潮是え小湧くも目と脇き夏の骨を痒おぼあわ
かふほふあつりさまばやべ橋よりみ志んり繫つてくこありせ居る
るい降ふふもくも風の吹出さゆふ船の鞆乃湊小小は
ぬ船中乃響陶といえさむ傍乃隘谷と三人とさむひくはる饅頭
屋とさふめすりせしをさつりつりまらとたけり小市ぬ魚と
居りり産あきさし小さうす唐くきまおくおあつりし
海と乃乗物くはる不ぬ見えもあらる京ありやも萬金よとこい

ともわふ始りるすまき奉乃板なりめじしくありうおふゆお
とら中居めさるる婢酌よ出居る祝話はわく色母ありとこて
を千いといてつるさつりて酒のさう旅情をなす作め爽刺る小
船小ふふ

○六日風猶よぬばつ小滞船す此地綿の南いお海綿ハ由前
備中備後よりも安藝横岐よりも多くいす安藝乃廣崎より
出す紙上より備中乃玉島備後の尾のさより出すと中より備後
よりおすと下よりさつりしと國とく絲板と油小紋ふす刺其ゆと
すく皆大坂へ板やくのせと彼あや油小紋とくつふと諸國小
下す大坂をば使油屋より中より願いと上りくかくはあふまりし

さてはるも通用の銀札ありて近國も通じりしるふふこれ札を
まことふとゆりる廻船の津小と海路の便よき船をんう辰刻や道
ふら船より上とく湯屋小行と流しとゆりまきば船路をれ船
びりふとく来るし店までいふ船はあつちりおちりふの舟外ふ
たやとわかへ船きまのふらふ津南もまきほきまどふらふりふ
るめひふ流引まそまらやと来るし中あつて船つてや付て
休まりまふくとまきふちかまふまをふさげりて勤わんご
いふたひ勤むら成さくといふをふてふら

○七日空を曇りしれど風汐もにふとて卯刻過すまし帆とあげ
く船出すあつととまき夫島とすれど田島よる鞆より人家まで四里

頗すこぶる北きたのこし桃山といふありてふら向瀬やをり横島志紀ふ
島をんぶのふあ何まとも人家いんやあり此沖南ハ備後をり伊吹
ぶら丸亀島股島これら伊豫國をの信乃島沖の海此海
小人家百むらあり高井がこまゆこまも人家ありといふま
百貫をぬのあり北ハ加島の地方小ある田の島より一里さそく良小あり
て松永島ハ臨濱ありまも前島これハ臨濱をりいづ風
うつりく汐さうい午刻づりり尾のま小著鞆より五里程は所をな
備後の域さかなぐ安藝の殿の領地なり北東ハ山わく南ハ入海の
湊なり町まこ千軒あり町通て家屋のまもをんじ上方小
替かふとをり商賣ハしょうばい乃向屋あり有れ市野菜の市

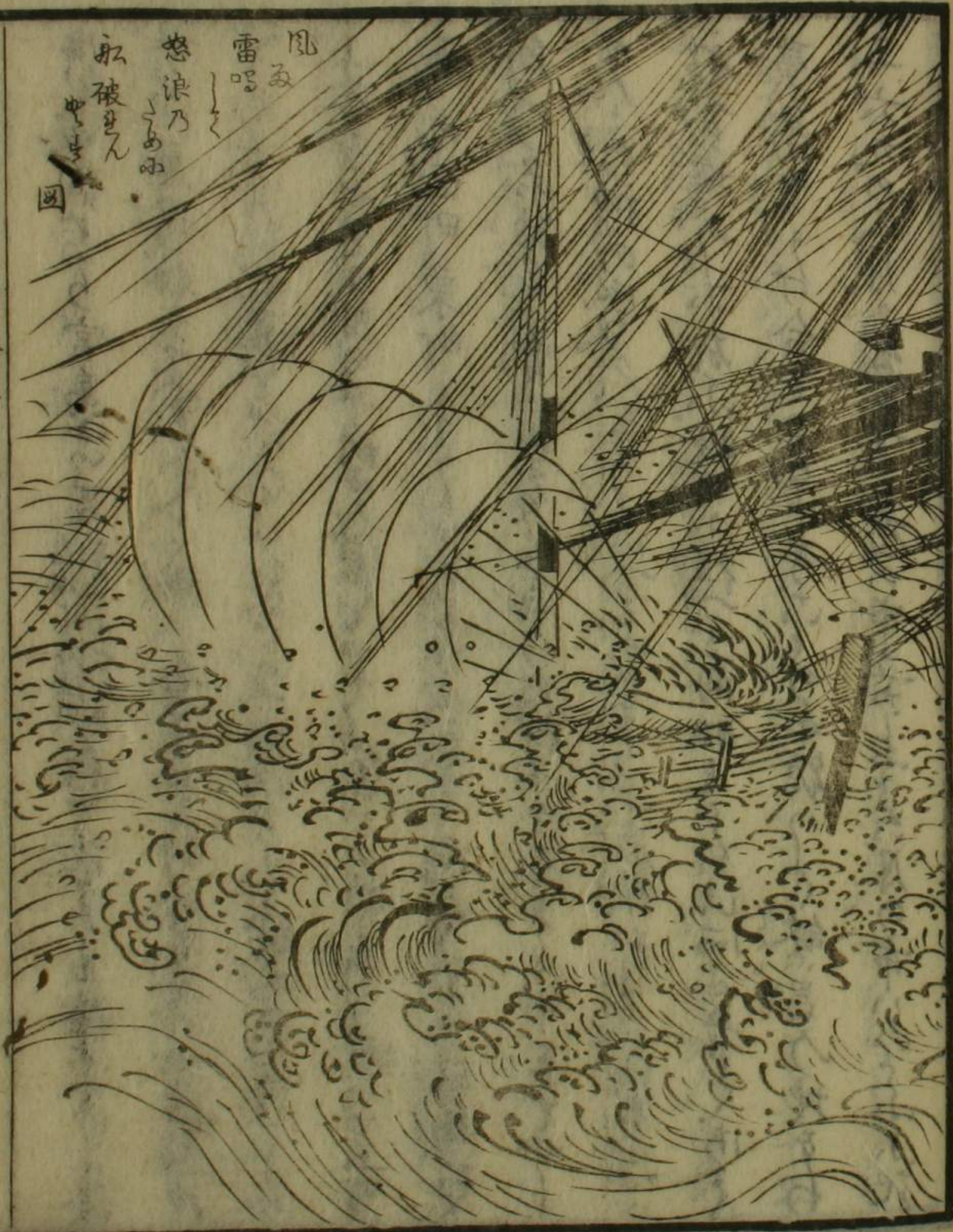
り穀物干鰯絲種塩などほある所も諸國より夥しく輻
湊す寺は皆山の手山ありて送るべきありて北西の方と三丁
程のむらば仙光寺といふ寺ありは庭も石垣三四間をりたる玉
のぼり臺撒る石ありこれよりわたりてのうらまゝ人の家
葉葉よぬむの板ありありしむらば海ありありする田路
を地よりわたりあるもやまの浦のよりわたりしよのうらまゝい
りるよ名にたりたり東南のこの町端は築出れ新地ありは固
る滝屋町にて流石子女郎たりあり津乃國の兵庫よりありての
間小第一の大湊たり奥物青物と女の賣ありくふと鞆小おれど
午刻といふ風夕なりわありふりわてお出す西乃う半里計ふ

ぬけとて大なる岩ふぬ穴のあると鯨島人妻たりは南ふありて
山伏瀬戸めり濃く鼻たる濃く人なり瀬戸にもあり此邊は
や安藝の境なり北ふありて三原乃城といふ廣島乃西乃市家
臣これと領せりといふことす地も南ふありてくのとふ人妻あり
こゆありありて砂見島能地高いづもて人家ありて柿と多く
出す西條柿といふ柿此より出たり又すこて南ふありて瀬戸
田といふ所ありる人事町なりといふかて申刻邊ふたの海
小著ぬ尾のそより忠海安藝の境内なり人家二百軒をりあり
濱也ふの百間をり石垣といふありて其所ふ入またり市もど
く干汐ふ入えずと湊口小繁りてとあり

○八日卯刻過小船出ず。西南乃二里むらに海狭くなりて小島おわりあるありとけ。おまありて大濠とらふ所ふ人家あるにゆ。南ふあて清とゆ。こまへ人家あり。是より南ふ折渡りて近江島大崎島目より島御手洗山をんぶらあり。あやありて竹系より在所あり。濠濱なり。とぐく松永よりはま乃濱まをれく志保濱あり。まこあの上こつあおきと切抜て。浦水と山間お引きて。入海の濠濱としつち不あり。潮海系より米百石よりけりるあり。も通行とぐし。地ハ竹魚子附。其先ふ二股といふ。湊のあるふ辰刻よりふゆる。風をたより。三口小ねんごらふ所とす。ぎゆふいづきも人家あり。午刻ころ坤の風おこりけり。とらふ。うね。犬柴とらふ。南ふ船がうりて未刻

す。ふころ又船出く。十丁けり。あもあだてんとあり。ふいづひ風をた波つら進。いづれゆ系。船にたて泊る。此所ハ柴浦とらふ。人家三軒あるとあらけり。

○九日卯刻過北嵐のつくと追風なりと帆とあがて航す。西小むらひく三里むらゆありて。むらとらふ。はゆる。すまひづる。人家あり。此をふかまうり。とらふ。小湊あり。人家百軒程あり。とらふ。此カ乃船路とらまうり。れ。瀬とらふ。ま。半里程あり。長濱たふ。ゆ。人家あり。此カトあり。あの方ハ南海乃地。伊豫の國界なり。かまうり。とらふ。南からふとらふ。湊とらふ。とらふ。おんどの瀬。アヤ。い。海忠。遊。より。十三里。余。ゆとほ。ゆ。とらふ。小。とらふ。とらふ。人家二百軒とらふ。南より東



はく申刻むら宮島小いふ。忠海より廿里并
おんこより七里船とほく上陸すはく湊
町中屋影助とく入事小入く浴し食素す。抑此宮島の地神不淨
と忌そふひ肥糞とほくひく記ふりて田畑はなく樹木の茂り
山谷をり山間の平地小人家とく家ハ子約むら町ハ十三町
ありて西町東町とくまてり宿屋おやく同屋ありは揚枝と
所ろ名物とく賣家あり島ろ内材木千本きり八千本せせり
みんとの神のぬりふをりとく町ろ小鹿猿おほくぬ廣島ハ
船入の場ありおれ不彼所小往小商船とくこれに著るけり
廣島やけ合とするとくがぶとの船路りく繁昌の地をわ
三六九の三月小毎年三度の市立かふ六月の市ハふふ小記

やうかりとくへいづも朔日より晦日まで二十日入市をりとく島の
島よりむむものあれ其日ろりに代所おかりはろく七十五
日ろく忌あきとくろくおゆる奉とゆりす遣すは地乃は前
ま大野をんどのろくつれもてより一里むらもあるふこゆる
子男子なれ百十日女子なれ百廿日ろく宮参りとせむりて死
人ハ赤のふはははろくき美ふ其所小禅寺ありて死せる人何宗
めしも皆此禅寺ろくありて葬事と執行すは島の廻り七里
ありとく町乾の方小しきとく町の東西の端小松の並木あり
此間小石燈あり東小五十四西小五十四あり今夜燈明と戯ふ
宿ろくとしと村司小通せむ社司ろく瀧へく洗米とほく

しをせおこしとくりしとくへとくくとあす。即参りて拜見す。御本社の内陣まがら小百八燈ちひやちやうの東西乃松間まつかま百八燈皆整せいて燃煌もくわうるあり。燈の料、内陣えと神慮しんりょもすじこまふりびとみぢくまふ。此燈の料、内陣の料銀十二文。廻廊まわらう松間まつかまにも廿四文。惣すべて三百二十四燈の料銀六十文あり。ておよかへて泊宿す。

○十日々ふの宮めぐりきむし。案内者どもめて、辰刻過り案内者の字を遠とほよりとけしきとととまきふとく。彌山やまさしてせむ。麓ふもとより二丁ゆたば弘法大師こうぼうだいてしの石の宝塔たうたうとふあり。二丁目小不動ふどう尊うんあり。いづれも小宮こみやあり。ザ一登のぼまば滝の宮拜殿みやひやうでん三間四方はり

あり。上うへ白糸しろいと瀧たきなれおつ。水上みづの上五丈ごじやうげり上うへれ。水の幅あし五尺計ごせきけい。たつが三段さんだん小滝あり。水みづ潔きよく聲こゑ高く。細こふとれ散ちりてげも白しろ糸いとと挂からん。いづれにしき瀧あり。奇觀きくわんと謂いつせし。七丁目小休堂しゅうだうあり。カ餅もちとちもちとと一文ふる茶屋あり。此こゝに文珠ぶんしゆ薬師やくし不動ふどう彌勒みらくの堂だうものあり。往いく。山やま朋とも小塚こづかあり。九丁目小岩屋こいわやの薬師やくしあり。又また四方よしかたあり。おぼゆる大岩おほいわ。石いしのむく。十六丁目小木こぎ集あつ。及また二王門におうもんあり。此こゝに右みぎの朝日あさひ觀音くわんおん夕ゆふ觀音くわんおんあり。此こゝに牛王ぎゆうおう觀音くわんおんの堂だうあり。是こゝに

此石小伊勢大神宮と遥拜する所あり。虚空蔵熊野二社権現行者
薬師ゴブツ痛ツク完クワン三サン之ノ夜ヤ荒アハ津ツのノ主ヌ。かつて本堂ふりり。中央の本を
虚空蔵菩薩。左右の脇立ウキだて六ロク千セン手テ觀クワン音オンとあり。寶
物モノハ日月星の三光石。佛舍利ブツとあり。百ヒャク歩ポ少シヤウ用ヨウ帳チャウ拜ハイ見ケンとあり。本堂ホンドウは
一イチ丁テイばりり。下ゲまマはハ曼マン陀ダ羅ラあり。三サン十ジュウ間カンあり。周シュウ五
六ロク石シヤクあり。平ヘイ石シヤクあり。依ヨのノ大ダイ師シのノ帳チャウあり。一イチ丁テイばりり。正テイ八
子シあり。上ウエ小コ阿ア字ジ正テイ八ハチと書カキ。三サン世セ諸シュ佛ブツと書カキて。その下ゲ正テイ八
幡ハン宮ミヤ。天照皇大神宮。三サン千セン七シチ百ヒャク餘ヨ神カミと書カキ。これをカキて
やと本堂の入り口カドにカキてあり。二ニ丁テイばりり。石イシの

鳥トリ集ツミ木キのノよりヨリあり。二ニ丁テイばりり。帶オビ劔ケンのノゆりユリと書カキて。二ニ王オウ門モンと書カキて。三サン鬼キ神カミのノ宮ミヤと書カキて。三サン社シャと書カキて。びビらラ中ナカと書カキて。追オヒ帳チャウ鬼キ神カミのノ宮ミヤ。右ミダリと書カキて。時トキ眉メイ鬼キ神カミのノ宮ミヤ。左ヒダリと書カキて。摩マ羅ラ鬼キ神カミのノ宮ミヤと書カキて。此ココ宮ミヤ傘カサと書カキて。二ニ王オウ門モンより内ウチまマつりり。持モチるルと書カキて。ゆりユリと書カキて。二ニ丁テイばりり。奥ウキ院インふりり。弘コウ法ホウ大ダイ師シと書カキて。夫ツレより大ダイ師シのノ岩イハ屋ヤと書カキて。此ココ屋ヤはハ嶽ダケのノ高タカと書カキて。數スウ十ジュウ丈チャウはハ嶽ダケのノ上ウヘ方カタ。日ヒ月ゲツのノ形カタと書カキて。此ココ形カタはハ大ダイ師シのノ作サクと書カキて。二ニ丁テイばりり。穴アナのノ岩イハ屋ヤと書カキて。此ココ穴アナはハ二ニ丁テイばりり。仁ニ王オウ門モンのノ側カタりリと書カキて。此ココ側カタりリはハ二ニ丁テイばりり。坂サカ險ケンと書カキて。此ココ坂サカはハ二ニ丁テイばりり。左ヒダリ右ミダリのノ間マにカキて。松マツ杉スギ桃モモ

かんどあきく生志わらう上のく三四間五六間をうづの岩乃間
 のくしとるる。いど險路けんろして棧所かきくあり。左右ハ谷水流き流れて滝
 のやうなるにあり。千疊岩よの岩頂いづみより十丁ばけり下りてあり。
 こと百間をうりもあるべし。中ハ二丁ばけりもあるべし。ばかすて
 岩ばけりたり。がくて心と下りて本社よまらぐ。本願庄主大
 聖院の庭と拜見す。築山の景甚いたなり。奇巧きこうハありあ
 ぐ。志も又作りたり。いれ親もよく。いづる上手の構くまへいふや
 せぬぐぬまははふふハあつて。うけふく景下ふとあつると
 ころそく庭とくころとふもまら。於舎の地少ていふなはる
 かりなり。其下小常芝居の小屋あり。茶屋かんどもあり。またわ

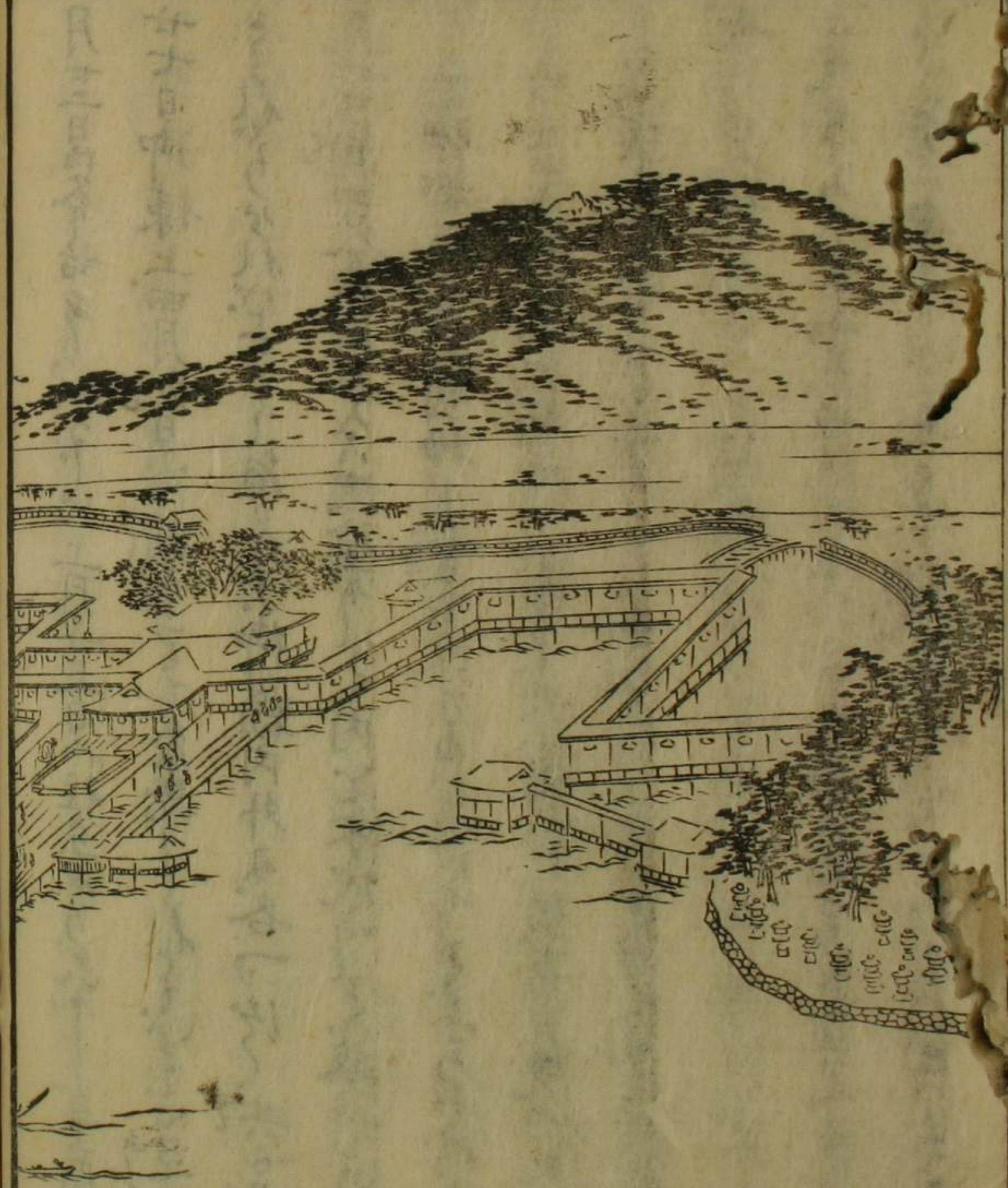
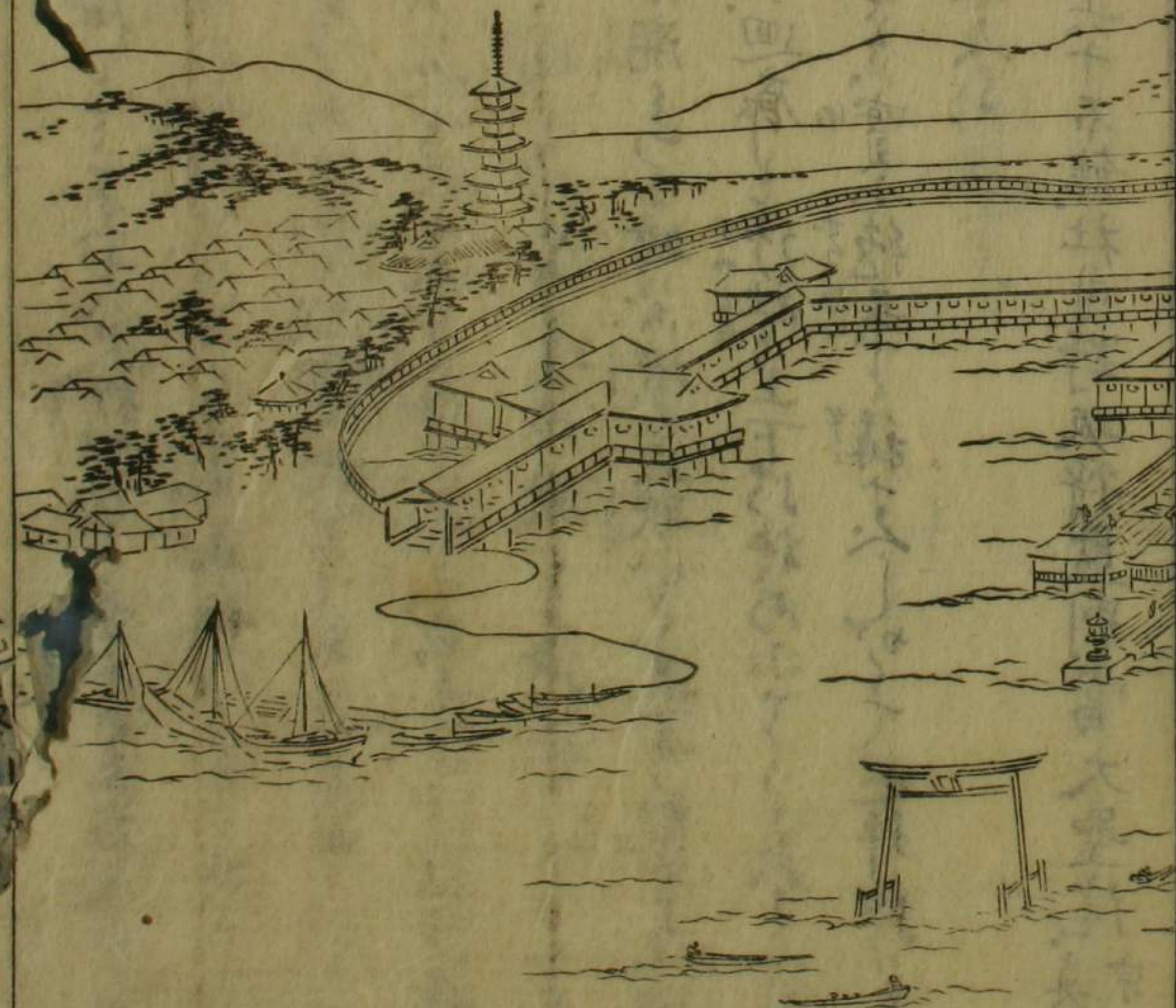
本願寺小ゆる。庭ハ重盛公の植まのり。よふねあり。又鐵てつの金あり。
 清盛公千疊とあつて。建立ありしとき。湯とくはせまの。釜こ
 とふ。寺はうとを思つころふ。はくろの本を築まがわくおほく
 ころり。花のあちゆう。をむむ。彼千疊とあつて。經堂とくはたり。廿
 四間ハ十八間ふし。柱ハ丸丸し。阿弥陀如来と安置し。まて戸
 はふふハ清盛公の建まのり。とくつ。五重の塔のき軒六間四方高ハ
 十七八間もあるを。し。釋迦如来と安置す。ハ文庫あり。文徵ぶんしち
 明が書ふ。名山蔵と額と掛り。入口の左右のより。らふ雪山が
 うる。聯とく。東壁圖書府西園翰墨林と歎きり。經蔵二字あり。
 一つハ轉法輪てんぽんと額とく。て。明版の一切經と蔵む。一つハ龍宮海蔵

高麗の版本と蔵りらりて廻廊百八間但八尺
 として一間々間毎小銅燈籠をとりけりわ天井小透間を
 繪馬にてけりて御社小参拜し客人社と五社あり正に
 素戔嗚命の五男神をとり大宮小六座ありまた天照大
 神と素戔嗚命とと中に居たり右に三女神即弁天
御同体也
 中常立命左の方小大國主命と天滿天神いとさく神と
 立並とらふりてと謹んて拜禮をてて廻廊と出及橋と渡りて
 御本地十面觀世音山玉權現点燈子神大元社大山住命と小常立命と
と云ふといふをまつる
非秘の流
ありとらたんののおりまをておしてそれらり集あつのものといふ
 三十四年をりてあふ雷火をし焼ると去める寛政十二年庚申五

月廿二日祭始ありおち地十月廿五日に柱立あり六月辛酉三月
 廿七日御棟上四月九日小額がくをて築籠りあしちれどもいまだ足代と
 とれらりたれがよとておえす御額内外各一丈共長八
 尺四寸滴た四尺五寸内をり黒塗りしく内と木地をし葵形の彫物
 して伊都岐島大明神と書り外なるは木地をしふち小流のりり
 として巖島大明神と書り共小百六代後奈良院の宸筆と
 して笠木の覆は檜皮葺なりとら底のさ五丈四尺余屋根の長七
 丈三寸柱の間三丈一尺余乾いぬ向くとして柱の木は楠の荒木の所
 小皮付りりともふ木のりり一本あり下の回三丈四尺あり西の
 回三丈二尺あり中ちのりり鐵の輪といふり下は回三丈二尺

藝
官島

卷二



あり添柱の細く何れも一丈七八尺程なる榎木の左右木口には
日光月光の真鍮の金物とほなり鳥集柱のつらなる所は木口一
尺ぐらゐる丸木とあまうづめし地とくあく其中にうらと
うらと夕時小六七尺も水うふよとて惣ては浄社汐時小
なる毎小廻廊の固より所舞臺拜殿より浄社乃下まもも汐
さく来ふ夜中小潮くる時燈の火映いそ甚奇觀なり沖の
方より拜望されば廻廊も浄社も上下は燈の火とて一目小
又や所をありて實小後系と稱すしかくて巡拜終つて
午刻に小宿小ふ。

當社御神領千六十石餘社司野坂將監別當大聖院 真言宗

本願大願寺社家浄師上下六十人社僧二十坊ありとてありて
ゆのり小ふとて泊宿す。

筑紫紀行卷三終

卷二

三四

